

HIV/エイズ対策における 都内外国人対応の実態調査



2016年12月
東京都 福祉保健局
健康安全部 感染症対策課

背景(1)

- **都内在留外国人人数:**
449,042人(2016年1月1日現在)
- **全国の外国人の約20%は東京に居住**
(以下、大阪、愛知、神奈川、埼玉と続く)
- **国際化(外国人の間での日本文化への関心の高まり、政府の訪日外国人旅行者受入の推進等)による外国人の東京への訪問、在留の増加**

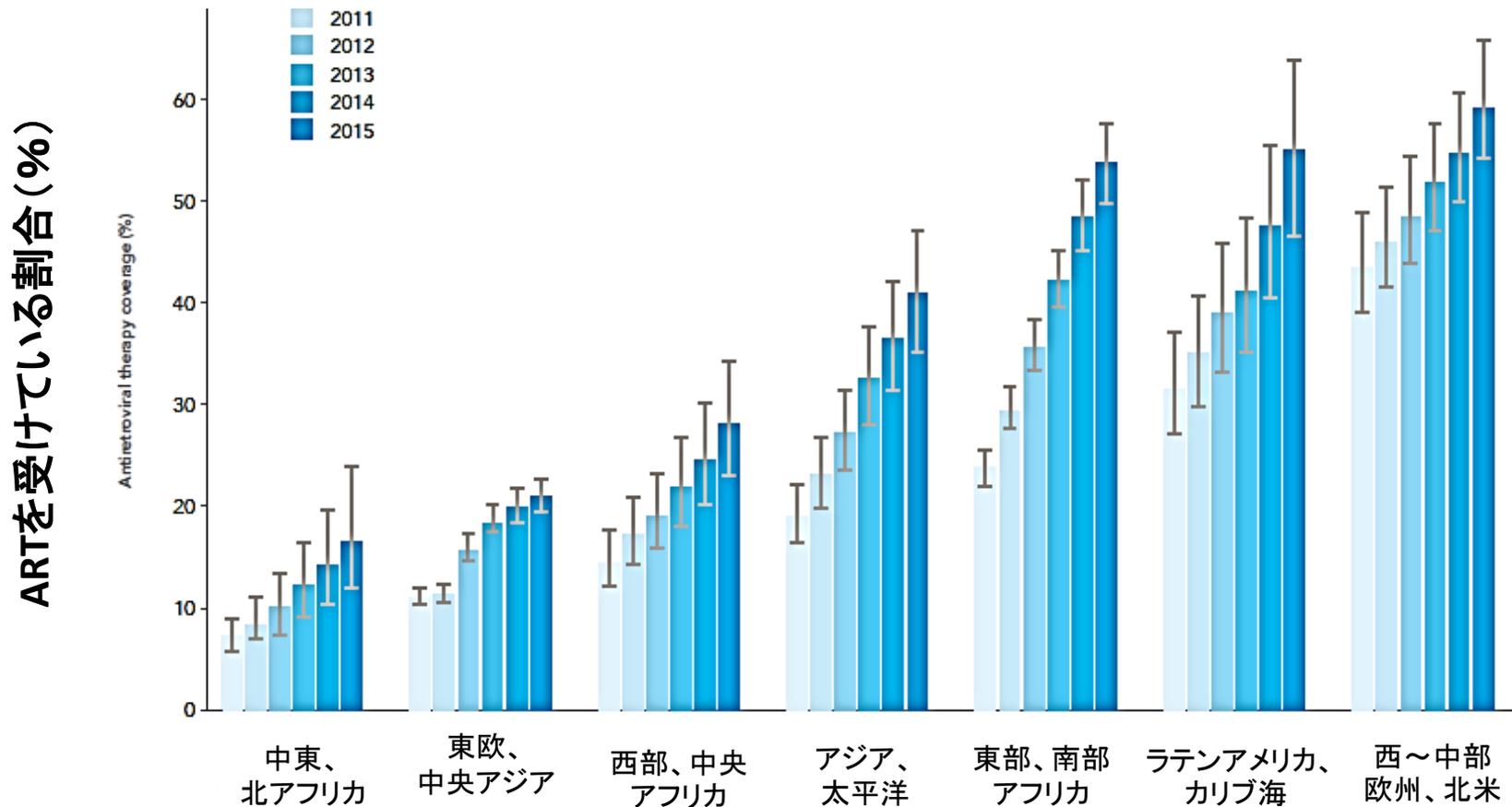
背景(2)

- **東京都の外国人新規HIV感染者報告数(2015年):
61人(全新規HIV感染者435人の14%にあたる)**
- **現状の外国人に対するHIV/エイズ対策:
外国人受け入れの実態把握が不十分**
- **都内外国人と、その対応の実態を調査し、
HIV/エイズ対策における外国人対応を推進し、
HIV感染の予防と早期発見を図る**

世界のHIVの状況(1)

Antiretroviral therapy coverage among people living with HIV, by region, 2010–2015

WHOの地域別に見たHIV感染者の中でARTを受けている割合 (2010年～2015年)

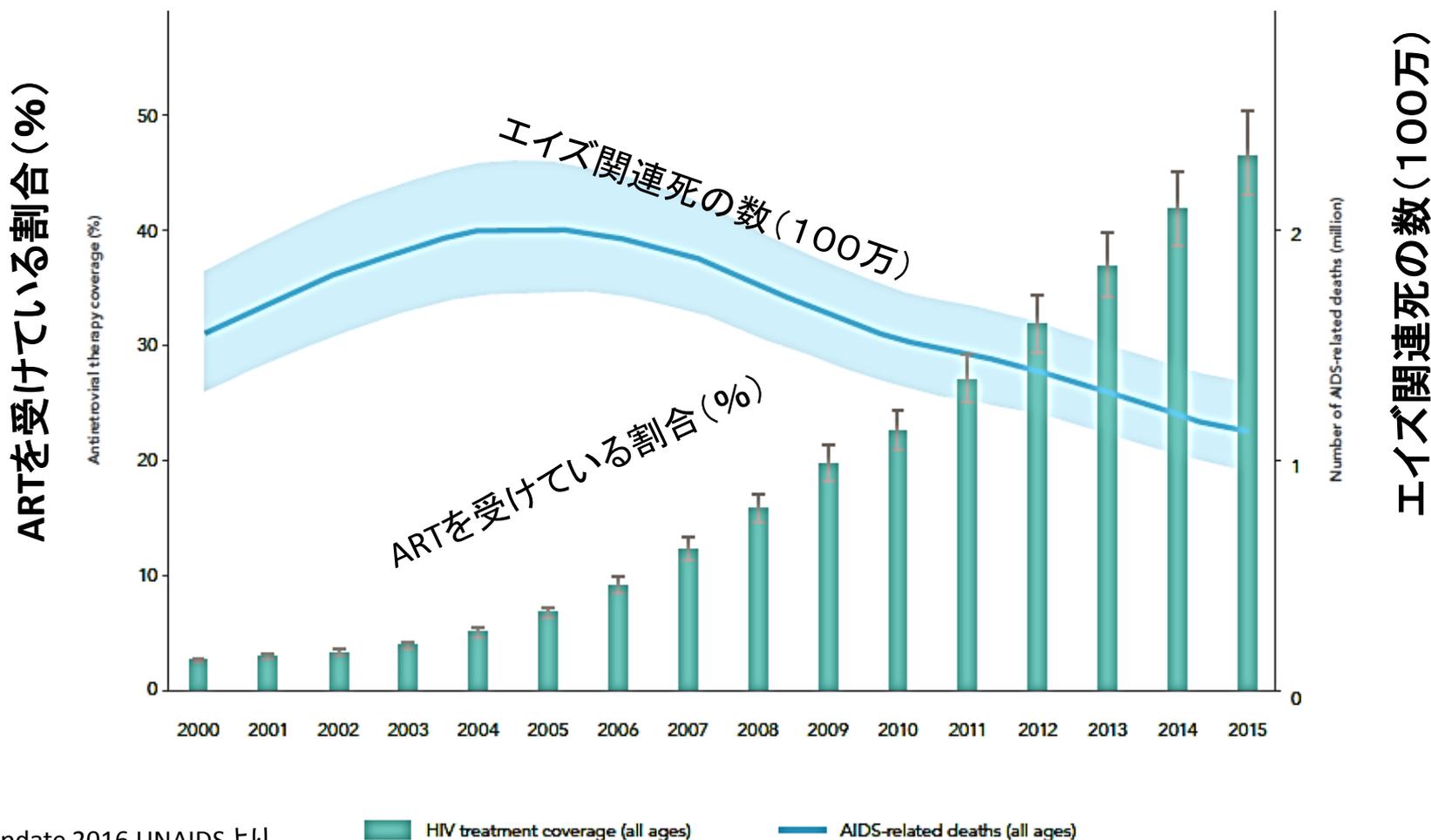


Sources: GARPR 2016; UNAIDS 2016 estimates.

世界のHIVの状況(2)

Antiretroviral therapy coverage and number of AIDS-related deaths, global, 2000–2015

HIV感染者の中でARTを受けている割合とエイズ関連死 (2010年～2015年)



外国人対応のための調査

調査1： 都内外国人対応のための調査

対象者

- 一般外国人
- 外国人HIV患者
- 医療関係者

調査2： アジア各都市の在留邦人が利用できる HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査3： 日本から入手可能な患者の母国における HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査1：都内外外国人対応のための調査

調査目的

都内外外国人に対するHIV/エイズの検査体制、相談体制、療養体制、普及啓発等についての現状及び課題を明らかにする

3種類のアンケート

調査1-1：都内の一般外国人へのアンケート

調査1-2：都内の外国人HIV患者へのアンケート

調査1-3：都内の医療関係者等へのアンケート

- 調査1-3-1：HIV検査機関の医療関係者等
- 調査1-3-2：エイズ診療協力機関の医療関係者等

調査1-1: 一般外国人へのアンケート

調査目的

都内の外国人の年齢や性別、国籍などの属性と、HIV/AIDS或いは医療一般に関する知識や行動を把握する

対象者

- 都内の外国人人口の上位10カ国から50名ずつ、計500名
- 上位10か国: 中国、韓国、フィリピン、アメリカ、ネパール、ベトナム、インド、タイ、イギリス、ミャンマー

使用言語

- 7言語: 中国語、韓国語、英語、ネパール語、ベトナム語、タイ語、ミャンマー語

調査1-1:一般外国人へのアンケート

質問の概要

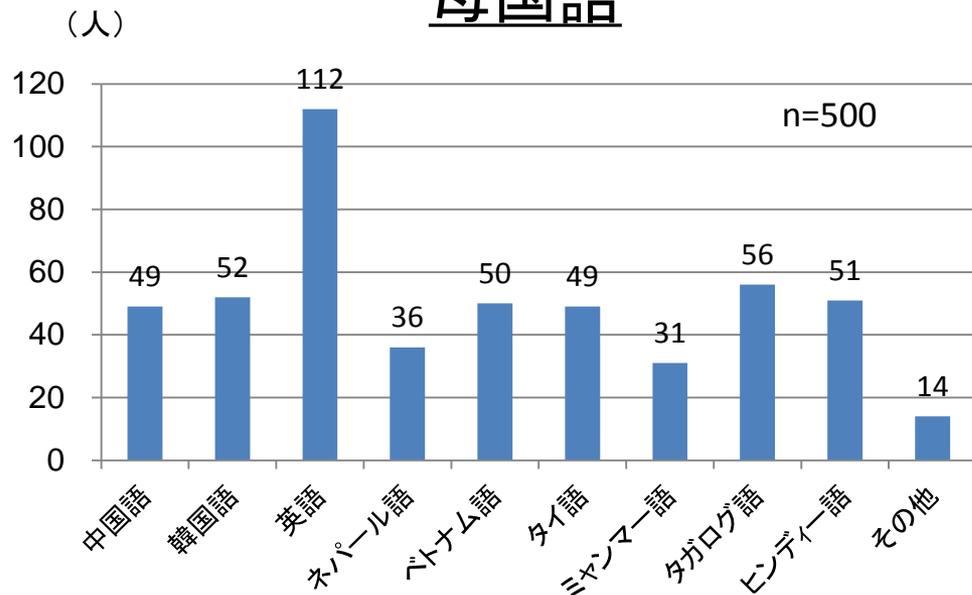
- 回答者自身について
 - 性別、年齢、国籍、母国語、日本滞在年数、日本語能力等
- HIV検査について
 - 受検した経験の有無
 - [有る場合]: 受検した理由、場所、困ったこと、要望等
 - [無い場合]: 受検しない理由、HIV検査に関する知識等
- 病院等の受診について(受診の理由は問わず)
 - 受診した経験の有無
 - [有る場合]: 受診理由、病院選びの基準、困ったこと、要望、保険加入等
 - [無い場合]: 病院選びの基準、要望、保険加入等
- 健康情報の入手方法について
- HIV/エイズに関する知識について

調査1-1: 一般外国人へのアンケート

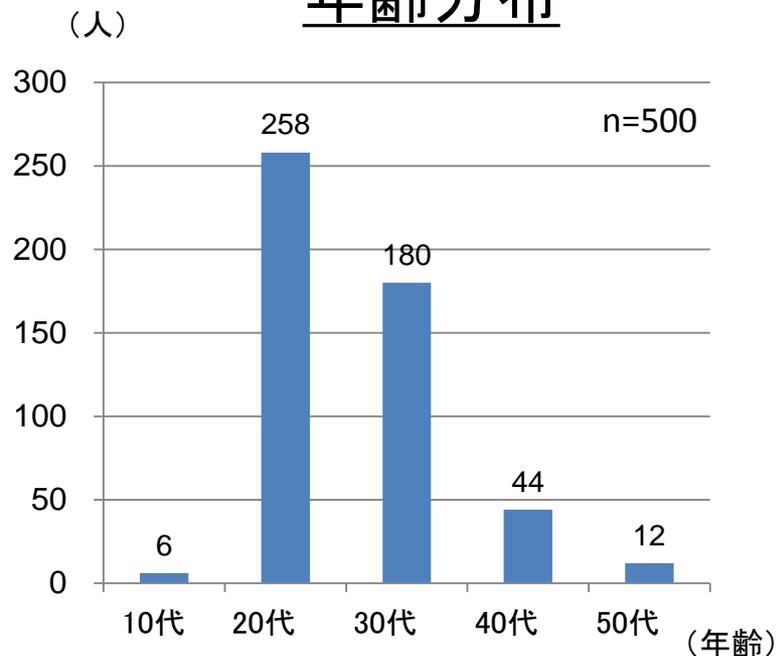
対象者の属性

- 都内の外国人人口の上位10カ国から50名ずつ計500名
- 国籍: 中国、韓国、フィリピン、アメリカ、ネパール、ベトナム、インド、タイ、イギリス、ミャンマー
- 男女比: 男性246人(49.2%)、女性254人(50.8%)

母国語

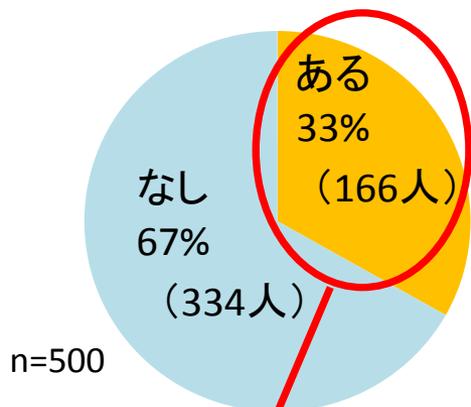


年齢分布

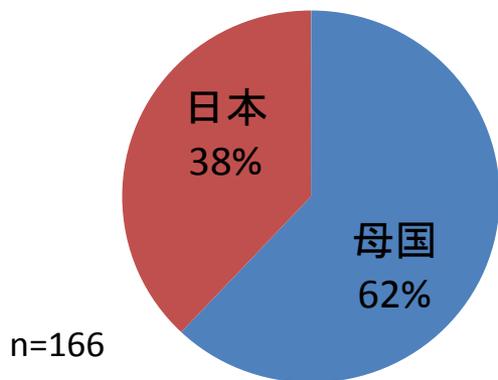


調査1-1: 一般外国人へのアンケート

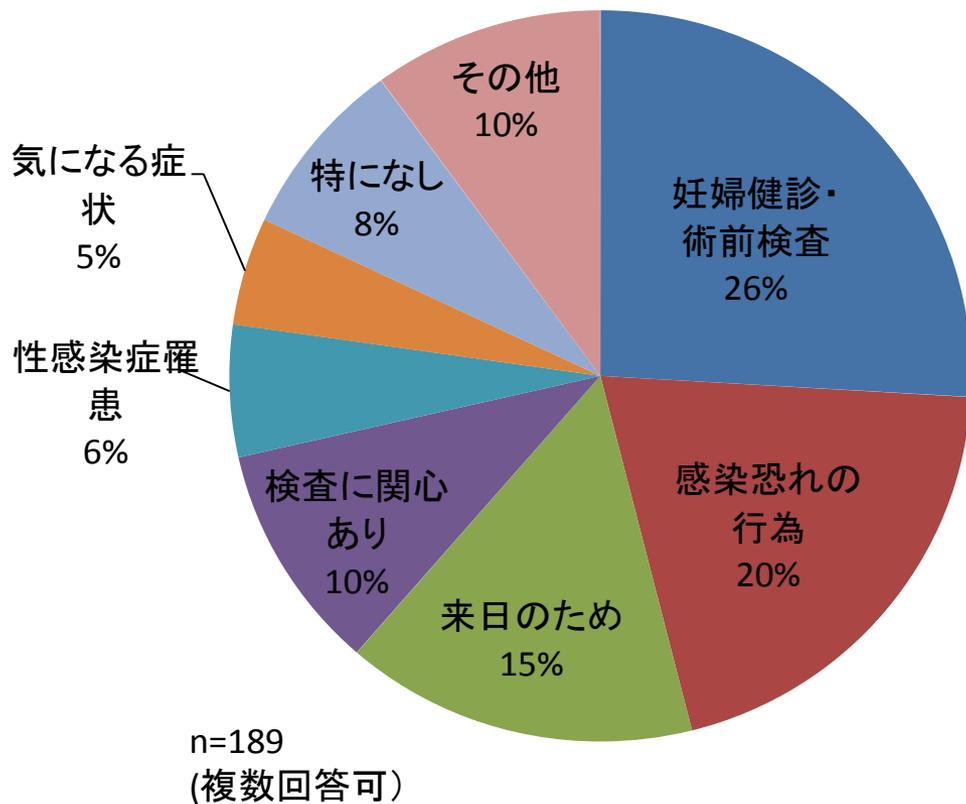
HIV検査経験



HIV検査場所

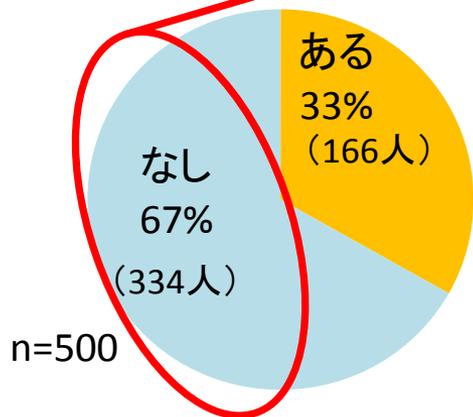


HIV受検理由

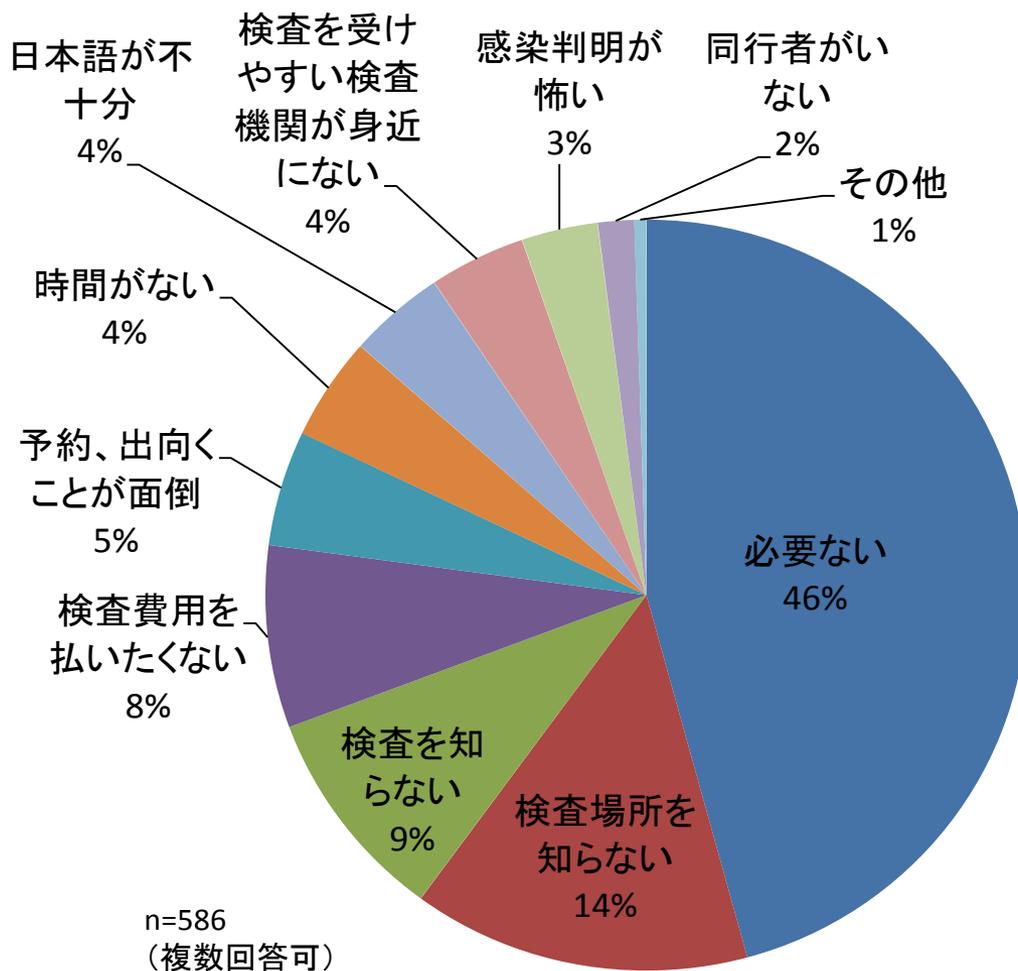


調査1-1: 一般外国人へのアンケート

HIV検査経験

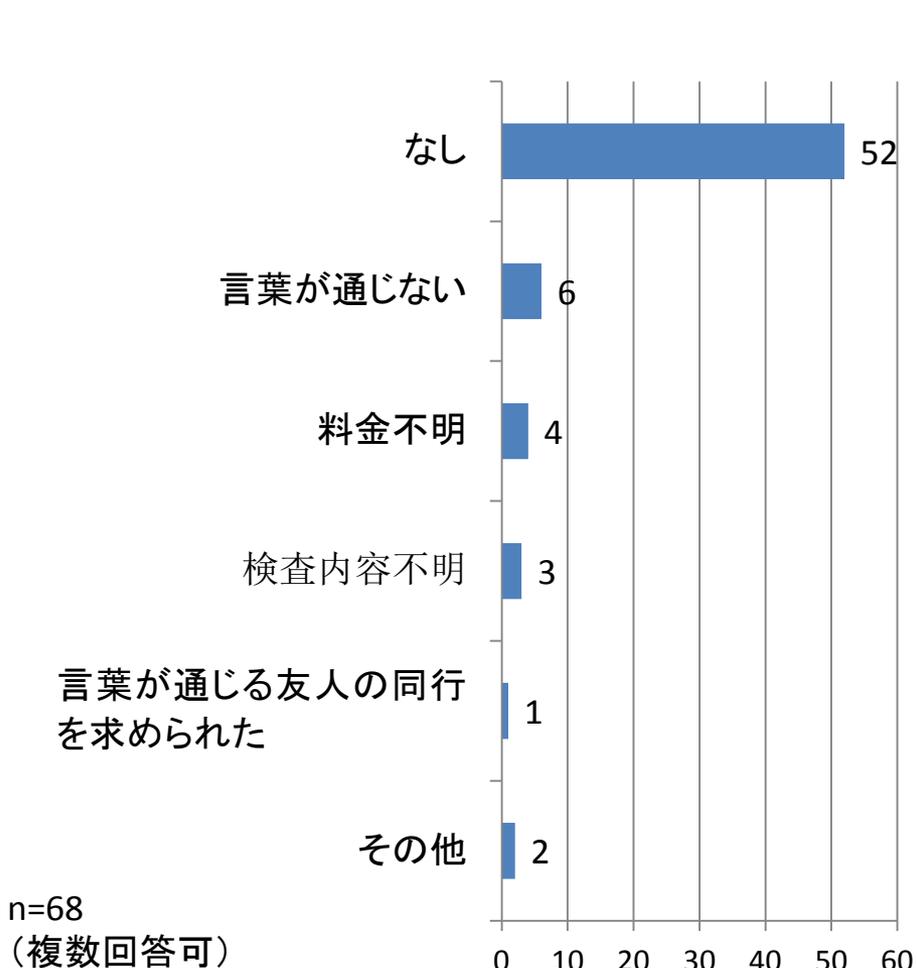


HIV受検しない理由

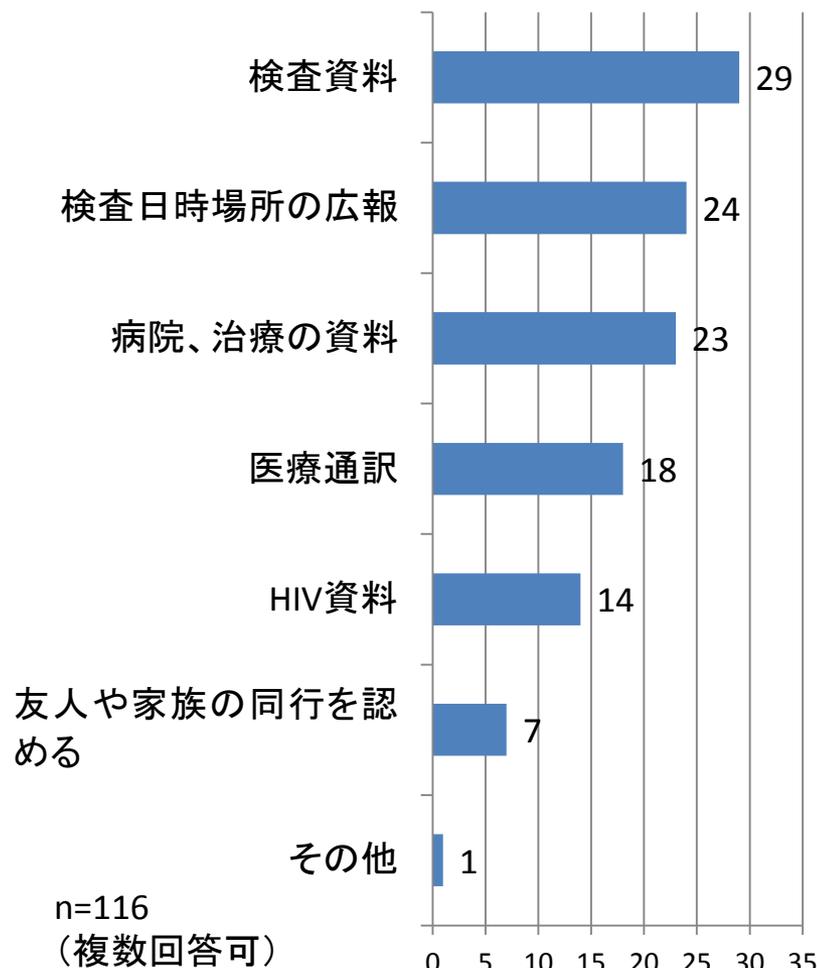


調査1-1: 一般外国人へのアンケート

HIV検査時に困ったこと

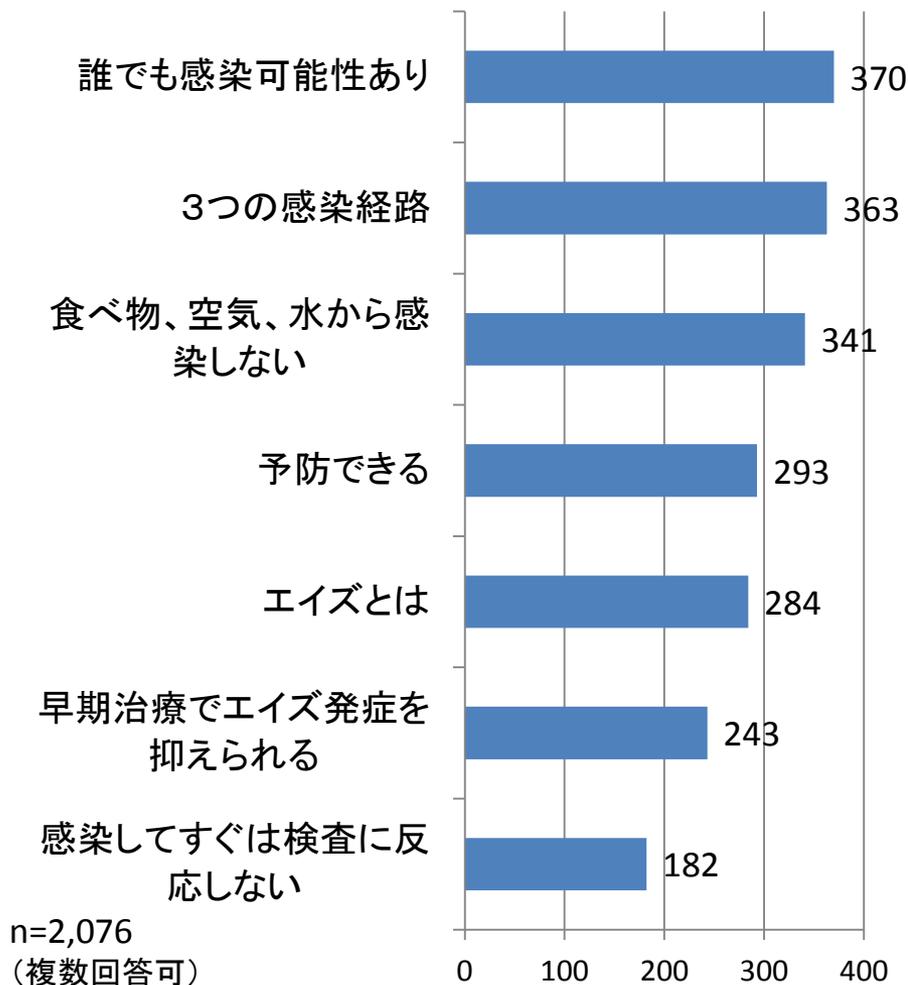


HIV検査施設に望むこと

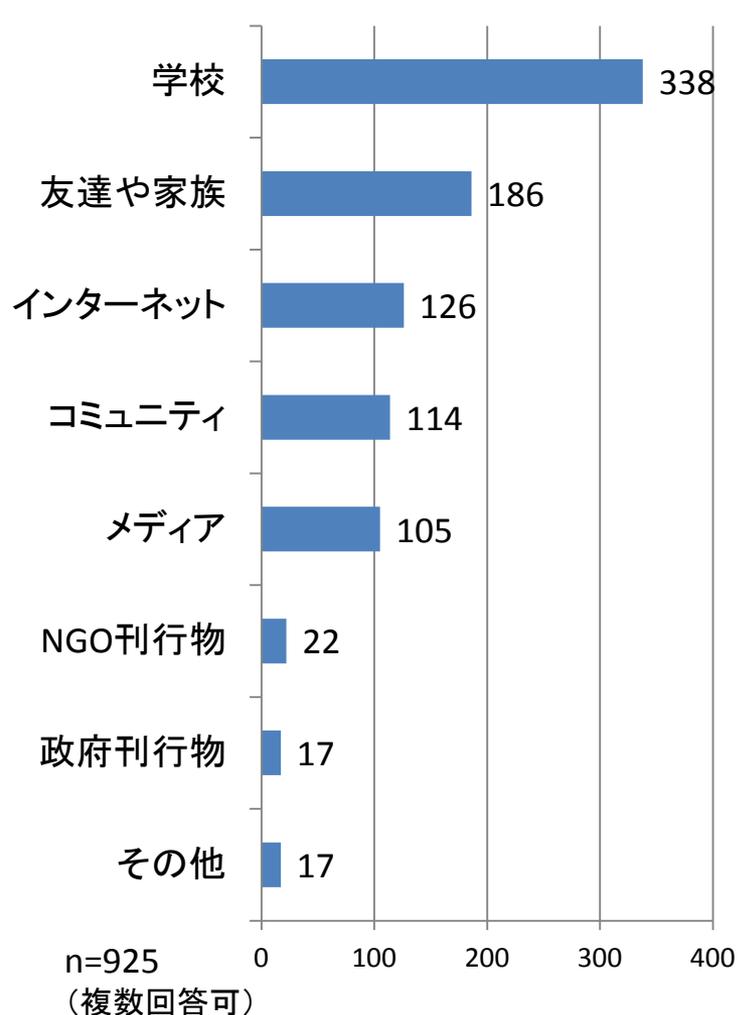


調査1-1: 一般外国人へのアンケート

HIVに関する知識



HIV情報の入手手段



調査1-2: 外国人HIV患者へのアンケート

調査目的

都内のエイズ診療協力病院に通院する外国人に対するHIV/エイズの医療体制、検査体制、相談体制、普及啓発等についての現状及び課題を明らかにする

対象者

現在HIVに感染し、都内のエイズ診療協力病院で診療を受けている外国人

使用言語(5言語)

タイ語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語

調査1-2: 外国人HIV患者へのアンケート

質問の概要

- 回答者自身について

性別、年齢、国籍、母国語、日本での滞在年数、日本語能力等

- HIV検査について

受検した場所、理由、困ったこと、要望等

- 通院中の病院について

その病院を選んだ理由、困ったこと、病院における使用言語、要望等

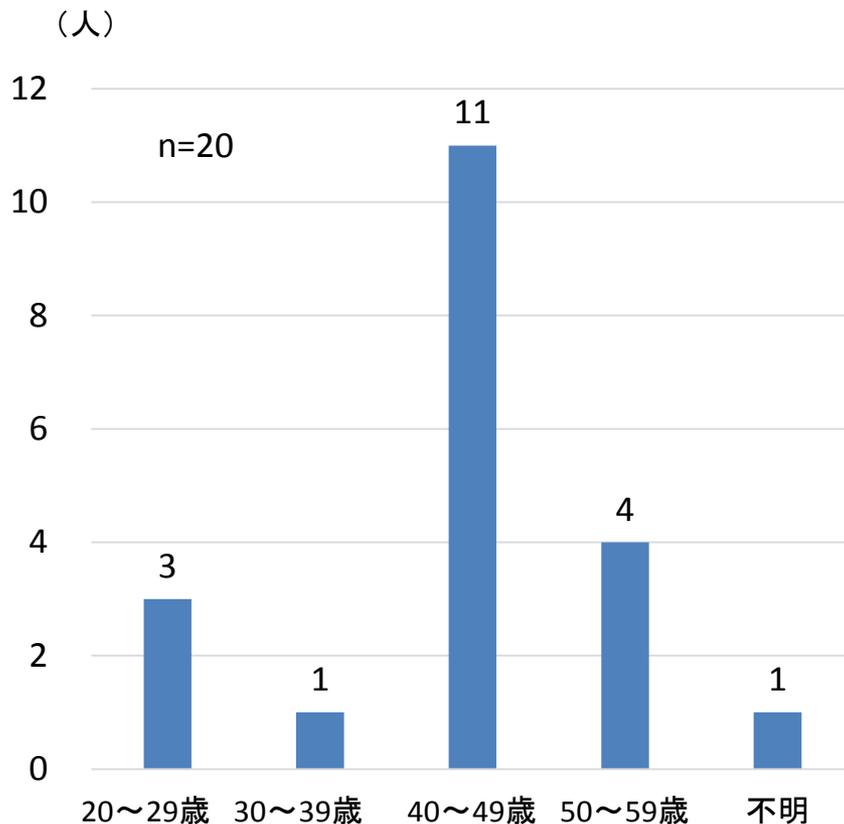
- HIVに関する情報の入手方法について

- その他意見等

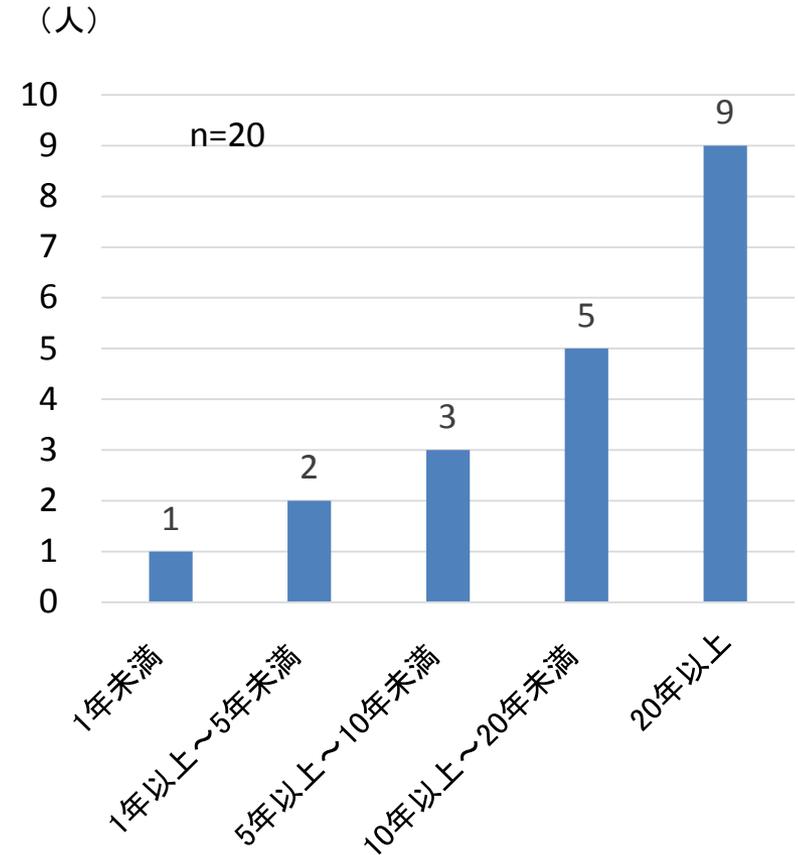
調査1-2: 外国人HIV患者へのアンケート

男女比: 男性13人(65%)、女性7人(35%)

年齢分布

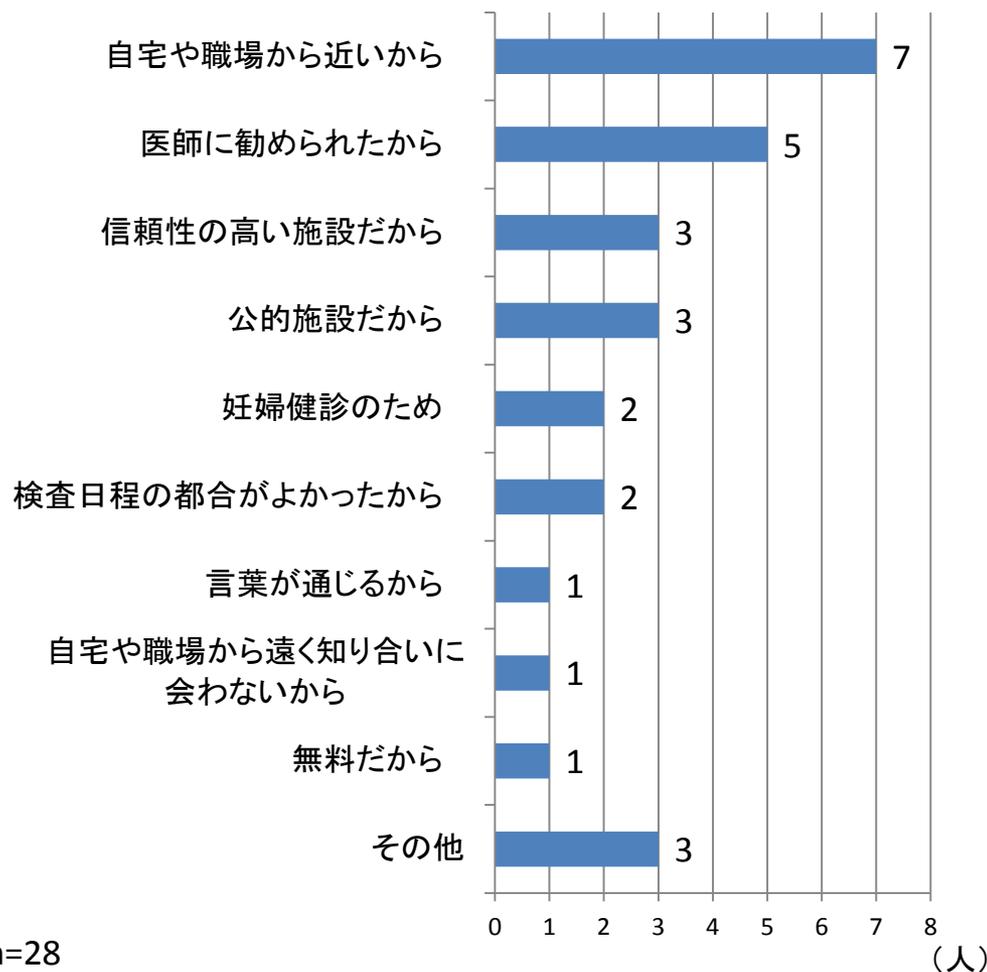


日本滞在期間

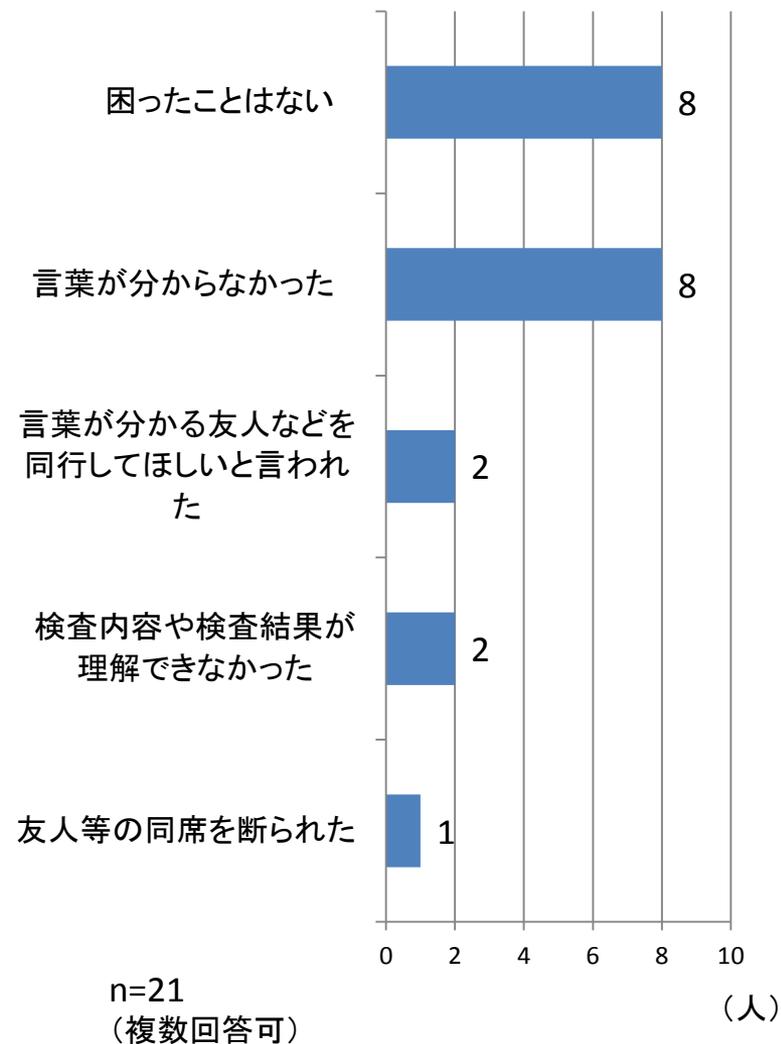


調査1-2: 外国人HIV陽性者へのアンケート

初回検査場所を選んだ理由

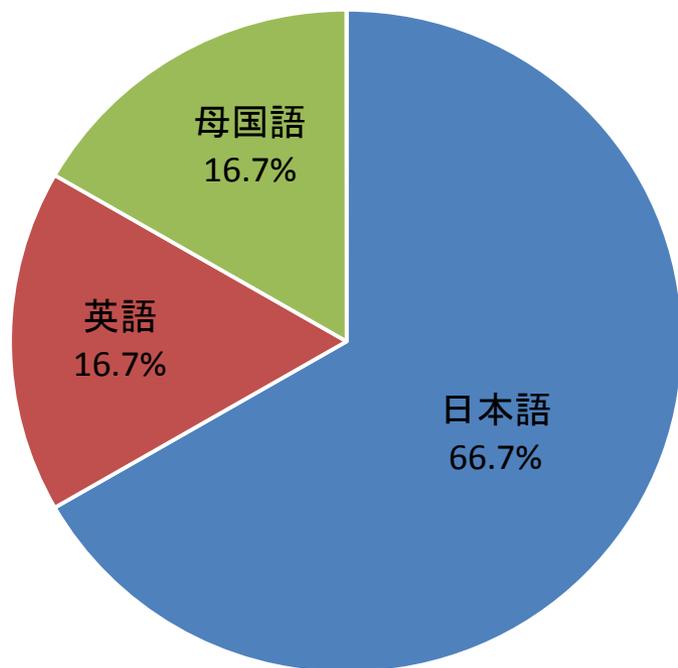


検査受検時に困ったこと



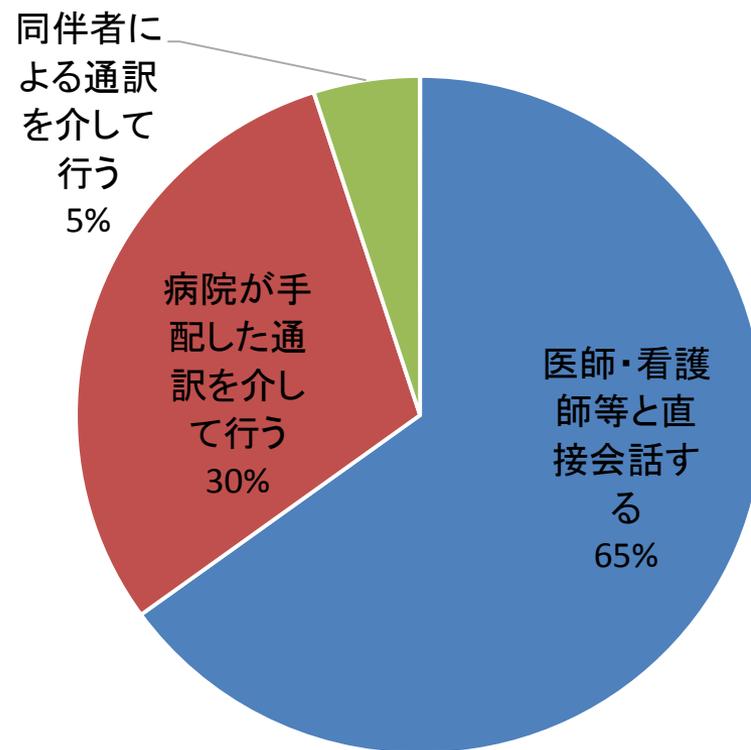
調査1-2: 外国人HIV陽性者へのアンケート

受診時に使用する言語



n=18

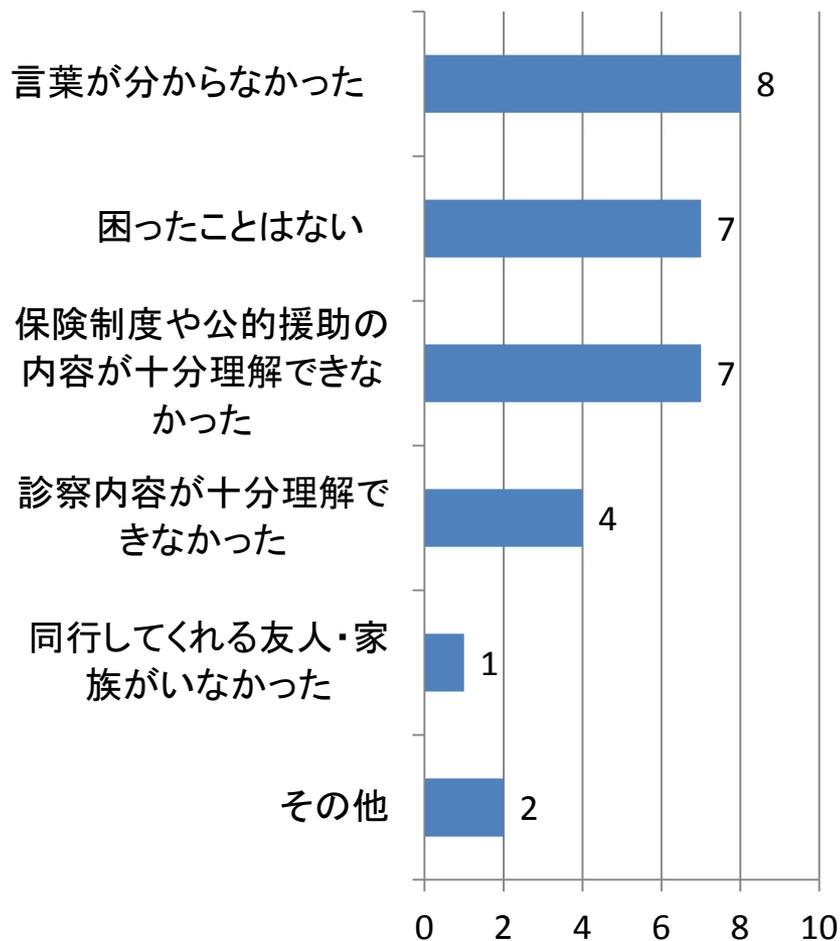
受診時のコミュニケーション手段



n=20

調査1-2: 外国人HIV陽性者へのアンケート

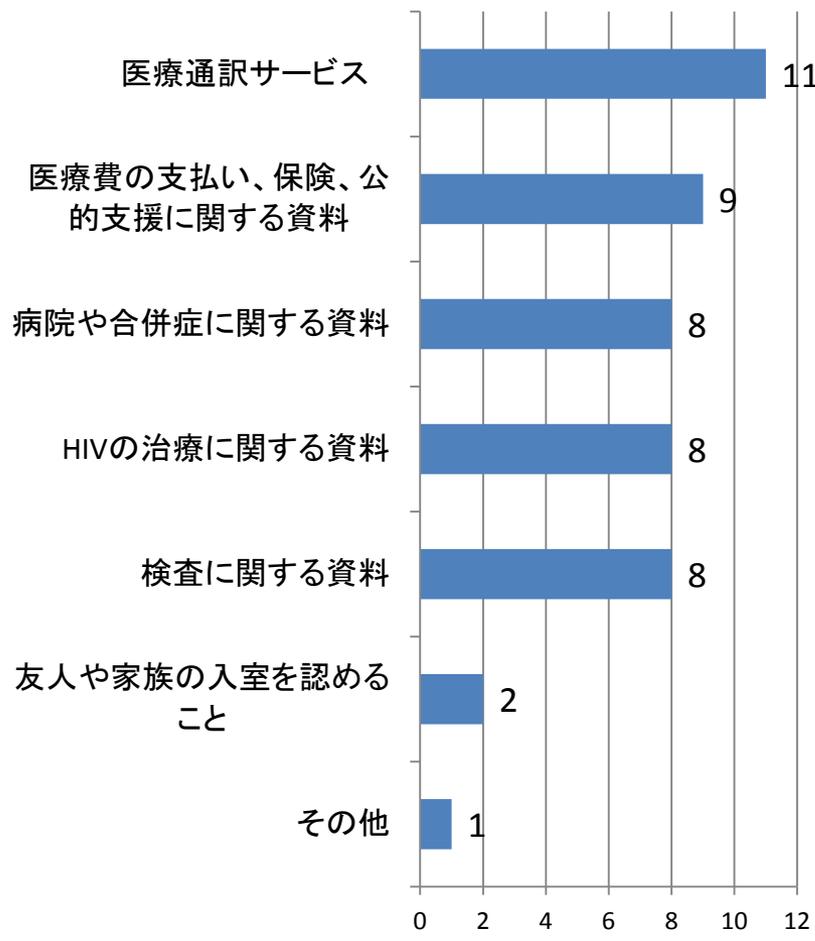
受診時に困ったこと



n=29

(人)
(複数回答可)

医療機関に望むこと



n=47

(人)
(複数回答可)

調査1-3: 医療関係者等へのアンケート

調査目的

都内のHIV検査機関やエイズ診療協力病院における、外国人が利用可能なHIV検査・医療サービス、カウンセリング、予防啓発に関して、医療従事者側の視点より現状を把握する

対象者

回答者: 医師、看護師、ソーシャルワーカー、東京都エイズ専門相談員、保健所の担当者(保健師)、NGO等

- ① HIV検査機関: 20機関
(特別区・市保健所: 13、都保健所7)
- ② エイズ診療協力病院: 35機関

調査に参加した検査・医療機関

東京都が設置する施設

- 南新宿検査・相談室 ★
 - 多摩地域検査・相談室 ☆
- 計2カ所
(2カ所中)
- 多摩地域保健所
 - 島しょ保健所(出張所)
- 計5カ所
(7カ所中)

東京都以外の主体が設置する施設

- 特別区保健所
 - 八王子市保健所
 - 町田市保健所
- 計13カ所
(26カ所中)
- 医療機関
(病院、診療所等)
- 計35カ所
(53カ所中)



調査1-3: 医療関係者等へのアンケート

質問の概要

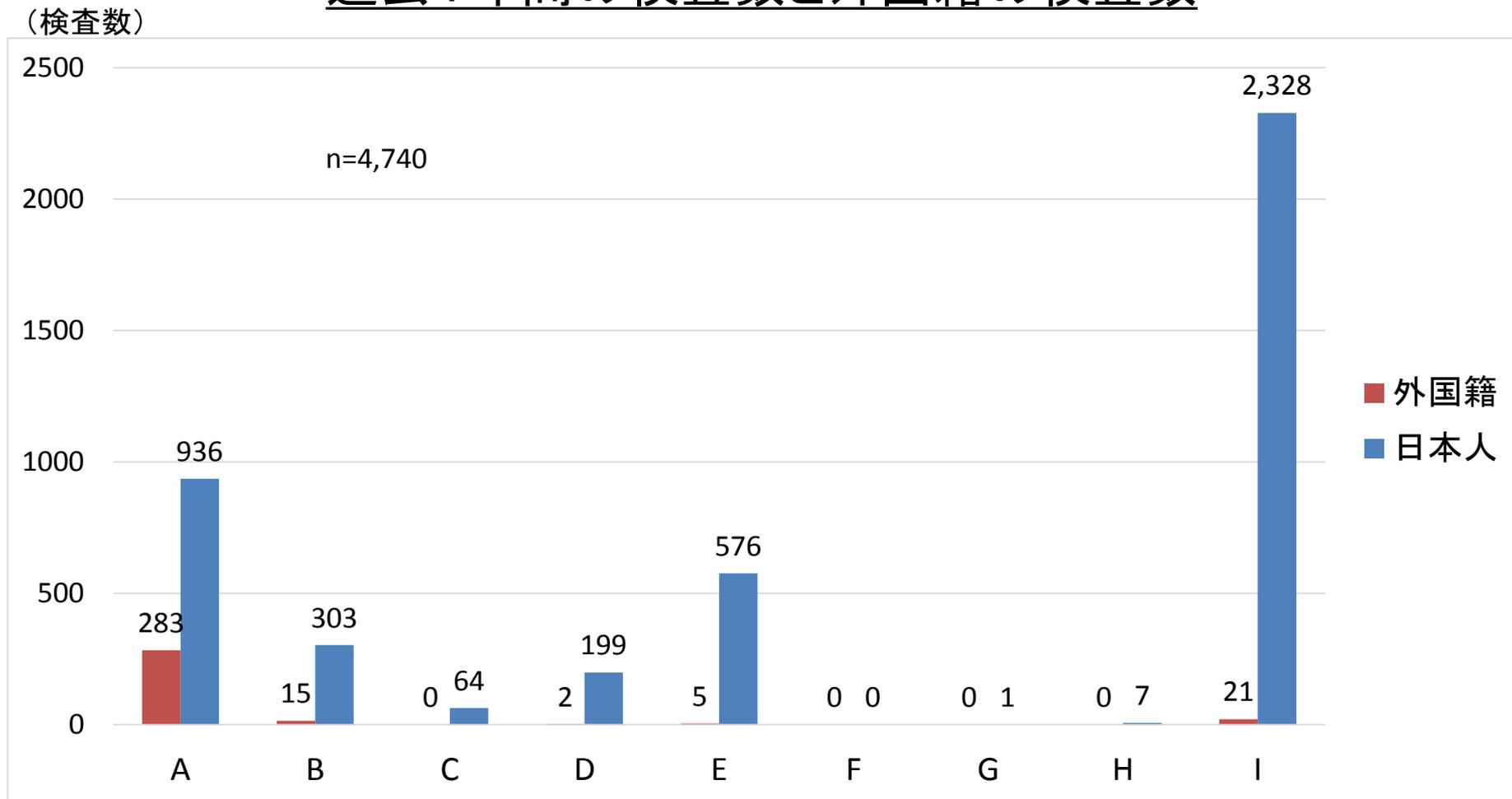
- 診療中または受検したHIV感染者・エイズ患者について
 - 過去1年間の新規感染者数・患者数(全体・外国籍)
 - 国籍別・性別・年齢階層別の人数
- 外国人感染者・患者との意思疎通について
 - 使用言語、説明用資料等
- その他
 - 工夫、今後必要と思われる事項等

**調査1-3:
医療関係者等へのアンケート**

**調査1-3-1:
HIV検査機関へのアンケート**

調査1-3-1:HIV検査機関へのアンケート

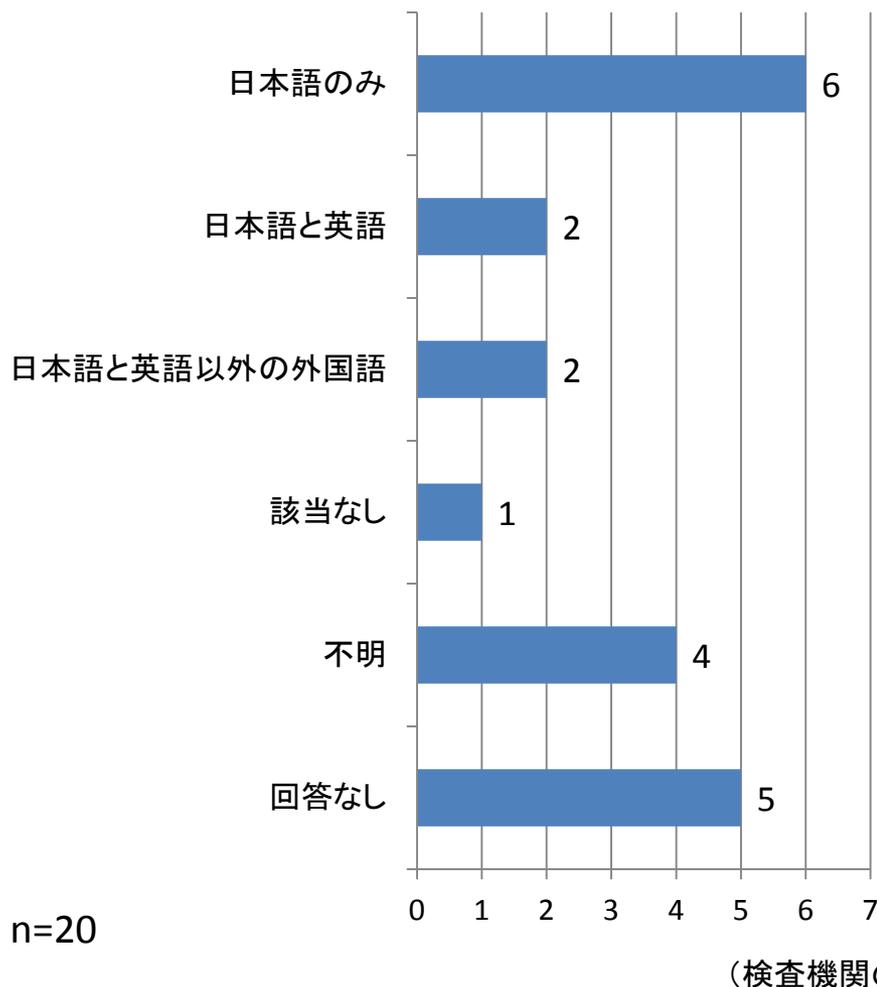
過去1年間の検査数と外国籍の検査数



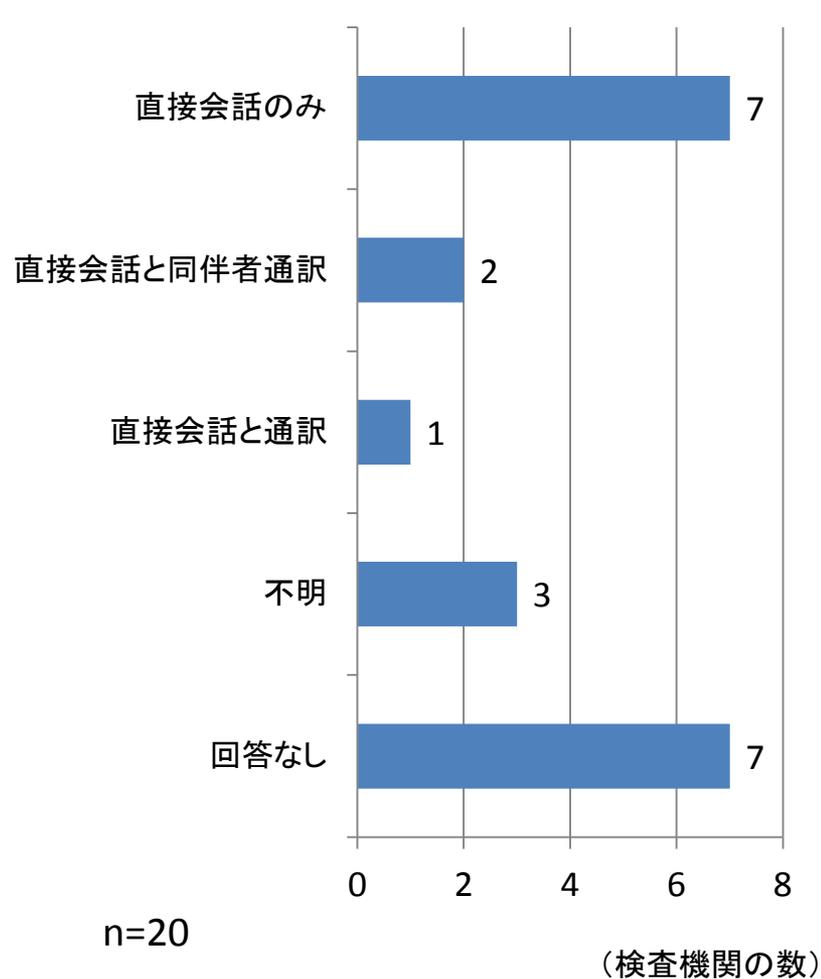
(医療機関:A~I)

調査1-3-1:HIV検査機関へのアンケート

使用言語



対話方法

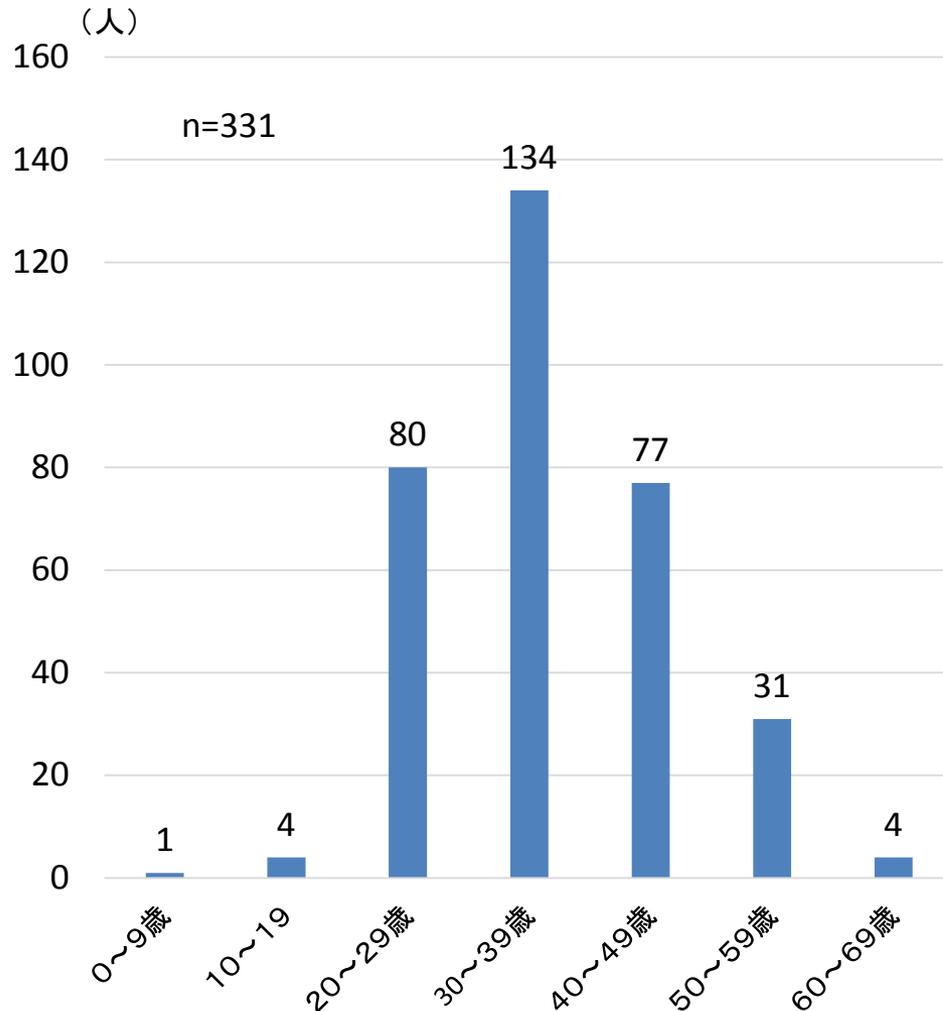


**調査1-3:
医療関係者等へのアンケート**

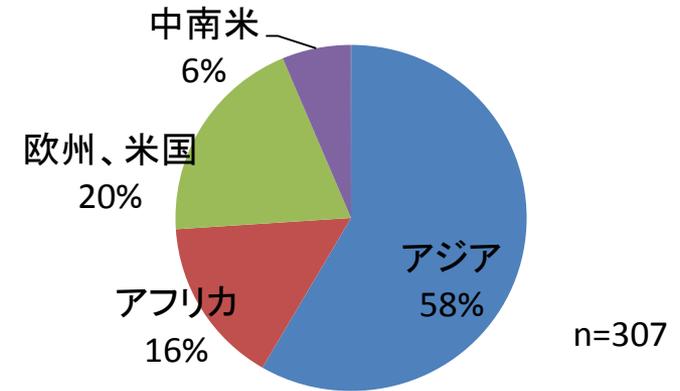
**調査1-3-2:
エイズ診療協力医療機関へのアンケート**

調査1-3-2:エイズ診療協力医療機関へのアンケート

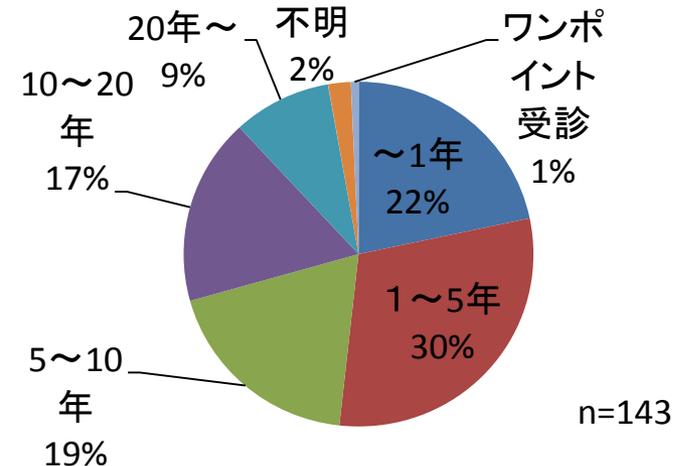
外国人患者の年齢分布



外国人患者の出身地域

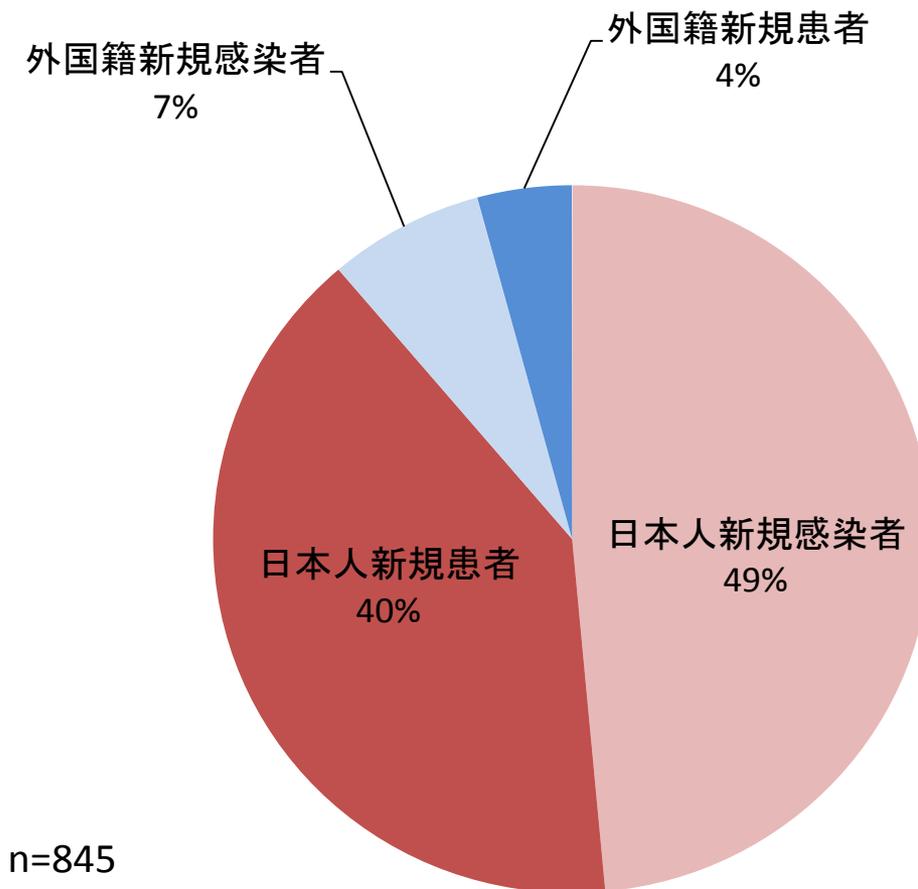


外国人患者の日本滞在期間



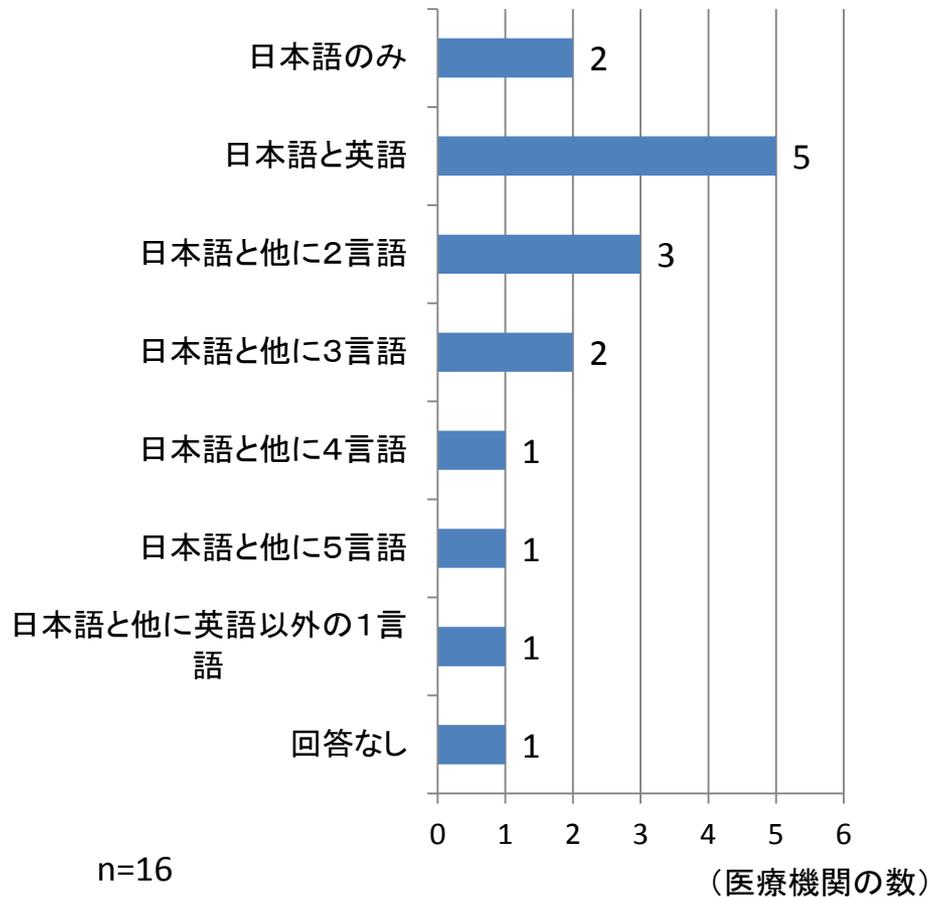
調査1-3-2:エイズ診療協力医療機関へのアンケート

直近1年間に受診した患者の内訳

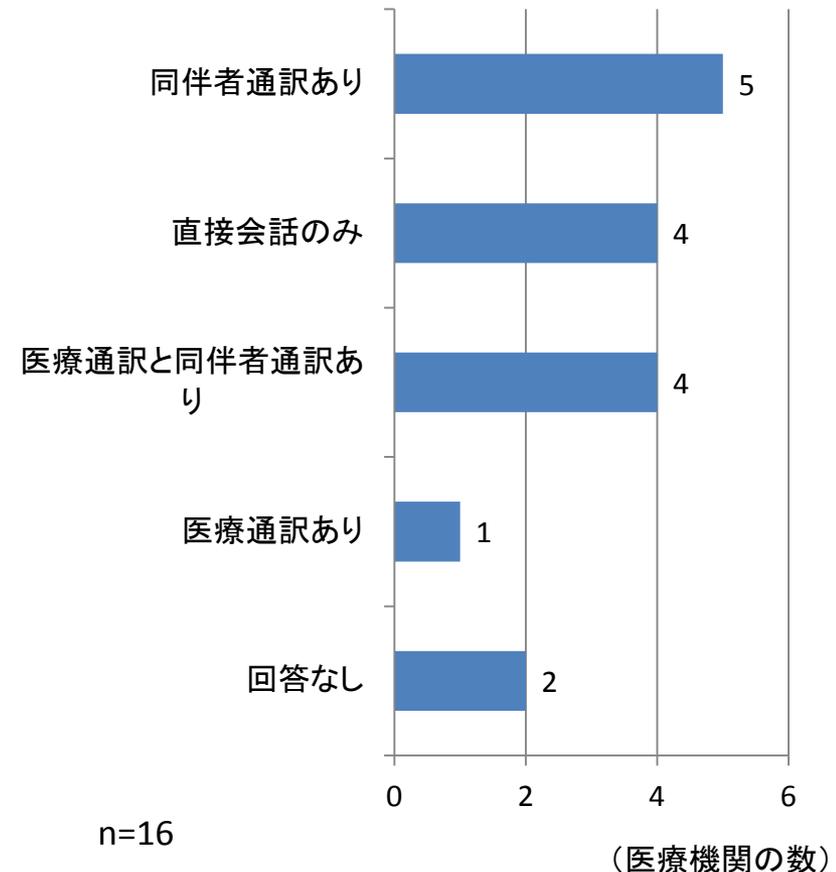


調査1-3-2:エイズ診療協力医療機関へのアンケート

受診時使用言語



コミュニケーションの方法



外国人対応のための調査

調査1: 都内外国人対応のための調査

対象者

- 一般外国人
- 外国人HIV患者
- 医療関係者

**調査2: アジア各都市の在留邦人が利用できる
HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査**

調査3: 日本から入手可能な患者の母国における
HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査2: アジア各都市の在留邦人が利用できる HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査目的

- 前記「(1) 都内外国人対応のための調査」との比較
- アジア各都市の在留邦人が受診可能なエイズ診療病院等、現地で受けることができる保健・医療サービスの状況や情報へのアクセス等について調査する

対象

- アジア感染症対策プロジェクト参加都市の中で、長期滞在邦人数(2011～2013年の平均)が上位の3都市: バンコク、シンガポール、ソウル

方法(調査は業者に委託して実施)

- 現地大使館や日本人会等の協力による調査(シンガポール)
- Webサイト検索等による各都市の情報収集

調査2: アジア各都市の在留邦人が利用できる HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

	バンコク	シンガポール	ソウル
日本語で受診可能な HIV検査機関	○	○	○
日本語で受診可能な エイズ診療医療機関	○	*滞在中にHIV陽性者と判 明した人は3か月までの 滞在が許可される。	○
外国人が利用できる エイズ診療に係る 公費負担割合	タイの公費負担制 度を受けられる場合 日本の保険が適応 できる場合あり	外国人向けの公費 負担制度はない 日本の保険が適応 できる場合あり	外国人でも、住民 向け健康保険や 職場での保険が 適応できる場合 あり
治療薬の選択肢	*ジェネリック薬の製造が 許可されている薬を優先 的に使用	ART薬の選択肢は 複数ある	ART薬の選択肢 は複数ある
HIV/エイズに関する NGOなどの支援団体	○	○	○

外国人対応のための調査

調査1: 都内外国人対応のための調査

対象者

- 一般外国人
- 外国人HIV患者
- 医療関係者

調査2: アジア各都市の在留邦人が利用できる
HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査3: 日本から入手可能な患者の母国における
HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査3: 日本から入手可能な患者の母国における HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

調査目的

- 日本国内で治療中の外国人エイズ患者が帰国する場合、引き続き十分な治療を受けられるよう支援する必要あり
- そのため、母国の医療や健康保険等の制度、エイズ診療可能な医療機関等に関する情報の入手方法について調査

対象

- 過去の調査で都内外国人HIV陽性者数の上位9ヵ国10都市:
タイ(バンコク)、アメリカ(NY、LA)、ミャンマー(ヤンゴン)、
中国(北京)、ブラジル(サンパウロ)、ペルー(リマ)、
韓国(ソウル)、フィリピン(マニラ)、マレーシア(クアラルンプール)

方法(調査は業者に委託して実施)

- Webサイト等を通じた日本から入手可能な情報に関する調査

調査3: 日本から入手可能な患者の母国における HIV/エイズ検査・医療の情報に係る実態調査

項目	状況
HIV/エイズ診療 をしている医療機関	体制に差はあるものの、ほぼ全ての国で、公立医療機関、 私立医療機関の両方で、エイズ診療が可能 (ミャンマー、中国に関する情報は調査からは得られず。)
エイズ診療に係る 公費負担割合	国によって制度は異なるが、ほぼ全ての国で、患者負担 を軽減する試みはされている。 (ミャンマー、中国に関する情報は調査からは得られず。)
治療薬の種類	治療薬の選択肢の幅に差はあるが、全ての国でエイズ 治療薬が入手可能。
HIV/エイズに関する NGO等の支援団体	全ての国で、政府組織、NGO、宗教組織等、様々な組織 が、患者支援に取り組んでいる。

平成28年度実施の調査

MSMに係るHIV／エイズ対策

MSMに係るHIV／エイズ対策

現状

- 東京都の新規HIV感染者及びAIDS患者の約7割がMSMであることから、これまでもハイリスクグループであるMSMに対する各種の啓発を、主として、商業施設(ゲイバー・ゲイナイト等)を中心としたゲイコミュニティ(新宿や上野・浅草など)を通じて実施している
- インターネットの普及などにより、商業施設の利用者が減少し、特に若年層MSMとゲイコミュニティとの関わり方が多様化している
- 都内の保健所・検査室での検査件数が平成26年から平成27年で約7%減少した

MSMに係るHIV／エイズ対策

課題

- ゲイ向け商業施設を利用していないMSMは、利用者と比較し、生涯のHIV抗体検査受検率が約3分の1にとどまると指摘されている
- 今後、MSMの新規HIV感染者及びAIDS患者を減少させるためには、ゲイコミュニティに関わっていないMSMも含め、より効果的に啓発していく必要がある

MSMに係るHIV／エイズ対策

調査目的

- MSM向けのスマートフォンの出会い系サイトや掲示板等の実態について把握する
- スマートフォン用の東京都Webサイトを試行的に作成する
- MSM向け掲示板等にバナー広告を掲載し、Webサイトへのアクセス状況を比較する
- MSMに対する、ネットに限定しないより効果的な啓発方法について提案する

MSMに係るHIV／エイズ対策

調査実施内容

- 出会い系サイト、情報サイト等の実態調査
- バナー広告の作成、掲載、集計
- 専用Webの作成と運用管理
- 専用Webの集計
- MSMに対するより効果的な啓発方法について調査結果を十分に考慮し提案する

MSMIに係るHIV／エイズ対策

バナーのイメージ

<①文字のみ>

HIV／エイズの検査していますか？
東京都

<②文字とイラスト>

HIV／エイズの検査していますか？



<③文字と写真>

HIV／エイズの検査していますか？



専用Webのイメージ

1 アンケート

- ・年齢
- ・性別
- ・居住地
- ・性的指向

2 専用Webページ

2-1 HIV／エイズの発生状況

2-3 HIV／エイズの検査

2-2 HIV／エイズの基礎
知識・予防

2-4 HIV／エイズの相談

MSMに係るHIV／エイズ対策

期待される調査の効果

- 東京都での今後のHIV／エイズ対策検討のための基礎資料とする
- アジア感染症対策プロジェクト参加都市において、ITアプリを活用した対策への関心が高いことから、各都市の今後の対策に活用できる
- 都内のHIV／エイズ支援団体(NPO等)と協力して実施することで、今後の団体の啓発活動への活用ができる